

特別プログラム だから療養病床は必要だ！

～ソーシャルワーカーの視点から～

【コーディネーター】 日本療養病床協会 ソーシャルワーク部会

【主旨】

療養病床は、これまで急性期治療後の医学的管理やリハビリテーションなどが必要な方への諸サービスを提供し、一般病棟と施設・在宅それぞれの狭間で苦悩し、生活されている方々を支えてきました。激変が続く医療制度改革では、療養病床などが「医療費の配分で効率化を進める余地がある領域」として、医療区分・ADL 区分における患者分類やリハビリテーションの見直しなどの改定が示されました。各医療機関では現場サイドと経営サイド共に大きな混乱が生じないよう、懸命の模索が続いております。

そこでソーシャルワーク部会では診療報酬改定後、療養病床としての医療サービスが必要な患者様・ご家族に継続して提供できているか、行き場なく彷徨うことが起きていないかなど、医療区分を指標に、ケーススタディ調査（医療区分 1 における患者属性調査）を実施しました。今回の特別プログラムではその調査結果の報告、ケーススタディの事例紹介、そこから見えてきた我々ソーシャルワーカーの「役割」や「頑張りどころ」をディスカッションしていこうと思います。また、今回はフロアの皆様との率直な意見交換や、各地域で起きている実態などについても直接対話をしていきたいとも考えております。当日、質問票・意見票を配布致しますので、忌憚のない皆様からの声をお聴かせ下さい。

【プログラム・9月7日(木) 13:15～15:45】

13:15～13:30 医療区分1における患者属性調査内容及び結果報告

榊原次郎（霞ヶ関南病院 医療福祉相談部長）

13:30～14:00 各病院からの現状及び事例報告

小澤陽子（松谷病院 法人管理部長・MSW室長）

小林裕恵（鹿島病院 医療相談部医療相談員（社会福祉士））

伊藤静子（総泉病院）

14:00～14:15 質問票・意見票記入及び休憩

14:15～15:45 シンポジウム

〔シンポジスト〕 松谷之義（松谷病院 理事長）

小鯖 覚（鹿島病院 院長）

奥川幸子（対人援助職トレーナー）

上記事例報告者 3 名

〔進行〕 取出涼子（初台リハビリテーション病院）